

新規採用教員へのインタビュー



松本 理史 まつもと まさふみ

県立勝間田高等学校教諭
(令和3年度採用)

自己紹介

令和3年4月に勝間田高校に数学科教諭として採用され、教員2年目となる今年度は2年団の担任と教務課、また弓道部の顧問を主に担当しております。休みの日で部活の練習がない日はサーフィンをしに海へ行く、ギターを弾く等、自分から動けるような趣味を楽しんでいます。また、生徒から「体が細い」と言われ続けているので、5kg増量を今年の目標にしています...

Q 教員を目指した理由を教えてください。

高校の時、3年間持ち上がりで担任をしてくれた数学の先生の、心から楽しんで授業をしている姿に影響を受け、教員になりたいという思いが強くなりました。大学は、教育以外のことも知っておこうと理工系学部へ進学したのですが、そこで、ものを扱う技術者ではなく、人と関わる仕事である教員になりたいと強く思いました。今では、生徒の心の変化に触れることができる点が教職の魅力のひとつであると感じています。

教員採用試験に合格後、教職大学院に進学しました。学部では数学のことを主に勉強していたのですが、それをどう教えるかというイメージがわかず、数学を教育することにどう学ぼうと思いまし

た。

大学院では、まず数学という学問を知らない、それを教えることはできないと感じました。数学の本質は、まずパターンの発見。次いでその裏側にある規則、法則などを発見することだと考えました。ではそれをどうやって生徒に見つけさせるか、を考えるうちに、「『遊び』を通して数学を教える」というテーマにたどり着きました。

Q 教員になってみて、この1年どうでしたか。

1年目は苦労しました。特に生徒との人間関係の構築が難しかったです。それでも、弓道部の顧問をしながら生徒たちと関わっていくなかで、教師としてのよいなスタンスで生徒とコミュニケーションをとるのが自分の性格に合っているかを考えていくことができました。また、担任の先生の生徒との人間関係の作り方からも、生徒との適切な距離の取り方を学んでいきました。

今思えば、最初の頃は、教員として生徒にはできる限りのことをしてあげたい、という思い

から、生徒との心の距離を近く取り過ぎていたのかもしれない。

Q 仕事の中で、どのようなことに気をつけていますか？

学校教育の核は授業だと思うので、授業を通じて生徒を人間的に成長させたいと思っています。今は、1人1台端末のChromebookなどを活用し、「Knowledge Out!」というウェブブラウザアプリを使って「遊びを通じた数学の授業」を模索しています。今は前時の復習として主に使っていますが、いずれは授業の足がかりとして、生徒が自分で考え始めるきっかけになるような使い方をしていきたいと思っています。

数学の授業を通じて、物事の規則、法則を見つめるなかで、よりよい方法を探そうとすることは、批判的に考える思考力育成につながると考えています。例えば、「Knowledge Out!」のようなクイズ形式の「遊び」を取り入れると、生徒は「負けて悔しいけど、どうすれば勝てるだろうか？」と考えるようになり、学びが深まっていく機会の一つになるのかなと考えています。

Q 目指す教員像を教えてください。

はつきりこれ、という像は、ま

だ見つけられていません。授業のことも、クラス経営のことも、正直まだまだよく分かっていません。色々な先生のやり方を学びながら、自分なりの教員像を見つけていきたいと思っています。

Q 教員採用試験の対策について教えてください。

先輩から情報を聞いていました。専門教科の勉強は大学3年の8月の夏休み頃から始め、10月からは一般教養、教職教養の準備を始めました。同じ学部には採用試験を受ける仲間がいなかったため、大学の生協が開いている対策講座などを通じて仲間と出会い、一緒に勉強をしました。

Q 休みの日は、どんなことをして過ごしていますか？

ギターや、同僚の先生に教えてもらったサーフィンなどが趣味です。趣味がたくさんあった方がいろいろな場所で息抜きできるのかなと考えているので、いろんな事に挑戦をしています。

今年度、弓道部が中国大会や全国大会への出場を決めたため、最近では部活が忙しいですが、時間を見つけて趣味の時間も充実させていきたいと思っています。